

平成 30 年度グループホームひまわり事業報告

グループホームひまわりでは『利用者一人一人がその人らしく生活する』ために入居者の尊厳を守り、適切な環境を整え、適切な関わりを持つことを常に意識することでケアの質の向上に努めた。

また、地域の方々からの問い合わせや相談が増加するなか、期待に応えられるよう「地域に密着した社会資源」を目指して、事業の推進を図った。

1 入居状況について

入居者定員(2ユニット)	18名
利用率	98.9%
平均年齢	90.7歳
平均在籍日数	4年2ヶ月

退居者	4名
新規入居者	4名
待機者	22名

2 運営の基本方針実施状況

認知症ケアに関する勉強会やOJTを通して、認知症ケアスタッフとしての専門性向上に努めた。BPSD（行動・心理症状）の対応だけではなく、ご利用者を取り巻く様々な環境を整え、なじみの関係を作ることで意欲や能力を引き出すことを追求した。その結果、BPSDの軽減や退院後の機能回復が見られ、ご家族との信頼関係の構築にも繋がった。

3 地域密着型サービスの重点事項

(1) 地域との協働と社会貢献

運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域の方々の意見も取り入れながら近隣のお祭りや、小学校の運動会などの招待を受け積極的に行事に参加した。

また、杉並区グループホーム連絡会主催の地域住民の方を対象とした家族介護教室の12回目を担当した。

(2) 利用者中心のサービスの提供

サービスを実践する上で『尊厳の厳守』『利用者を知ること』『有する能力・意欲を安全に引き出す』を常に意識し行動した。ホーム内での各種活動の他、それまでの暮らしを大切にさせていただけるよう住み慣れた近隣へのお散歩や買い物、慣れ親しんだ地域のお祭りへの外出等、個々に応じた活動を実施した。

またケアプランの中で、ご家族も生活をサポートして下さる一員として位置づけ、ケアに参加されることで、ご利用者に安心して生活していただけるよう努めた。

(3) 専門職の連携を活かした職場づくり

研修会や勉強会への参加を増やし、得た知識・技術を実際のケアに活かせるよう、日々ケアの振り返りを行った。

介護福祉士資格の保有率は8割である。

(4) 安定的経営基盤の確保

事業運営の目標を年間平均利用率98%に設定し、体調変化の早期発見、入院された方の早期退院に向けたご家族・病院との連携や、退院後の重介護化に対応するために必要な介護技術を全スタッフに周知するなど、円滑な入退院に努め、年間平均利用率98.9%を達成した。

4 楽しい食事への取組み

食事作りは個別の状況に合わせた環境を整え、ご利用者に出来るだけ主体になっていただけるよう取り組み、3食・おやつは手作りを中心とした献立とした。また、昔ながらのぼた餅作りや味噌作り、母の日月間ではご家族と一緒に外出し、外食もしながら思い出や季節感を感じていただけるよう工夫をした。

5 感染症・健康管理

健康管理では、感染症流行期間は、特にご利用者・ご家族・スタッフその他来園者の手洗い・うがいの徹底を呼びかけ、感染予防を図った。また感染症予防の研修を実施し、日頃から感染症対策・衛生管理の重要性を学んだ。

上記の感染症予防標準策を徹底し、感染された方はいなかった。引き続き感染予防策を徹底していく。

医療連携体勢加算の算定を継続し、週1回医療連携看護師が来園し、ご利用者の健康管理を行い、報告・連絡・相談がスムーズに行えた。また、定期的に医療連携会議を開催し、病院との連携もスムーズになった。

今年度より、地域で行われている「わがまち一番体操」へ参加している。楽しみながら筋力アップが図れる場になっており、ご利用者から好評をいただいている。

6 会議・研修・委員会・担当について

【内部研修】

認知症ケアに関する知識・技術の習得を目的とした研修会や、法人研修企画部のキャリアパス研修等へ積極的に参加し、スタッフが同じ視点でケアが行えるよう努めた。

【勉強会】

勉強会で得た知識・技術を実際に現場で活かすために、スタッフは毎日その日行ったケアの振り返りを発表し、指導やアドバイスをを行うことで、常に認知症ケアの質が向上するように努めた。

【担当・行事】

各丁目の月担当が、毎月季節の行事や誕生会を企画し実施した。毎年恒例の「秋祭り」では、ご利用者とご家族と一緒に楽しんで頂く機会として開催した。また、近隣のレストランへ、ドライブを兼ねての外出や、春や秋には少人数で行くバスハイクを数多く計画し、ご利用者全員が参加され好評であった。

6階にあるテラスの花壇を活用し、じゃがいもや、サツマイモの栽培を行い芋ほり大会を開催しご利用者から大変好評をいただいた。

7 フロア目標の取り組み・成果

目標1：サービスマナーの向上に努めます。

(成果) 丁寧な声掛けを徹底し、お部屋入室時のノック、扉を閉める等プライバシーに配慮したケアを行った。また、訴えや不安な気持ちを傾聴し、想いを理解

や汲み汲み取りをしながら安心していただけるように取り組んだ。

目標 2 : 問題意識を持ち、リスクマネジメントに取り組めます。

(成果) 医療連携の看護師と定期的に会議を開催し、緊急時の受診方法など再確認したことで、迅速に対応できるように取り組むことができた。また、より安全に薬の管理ができるよう看護師・薬剤師と連携を図りながら、薬の与薬マニュアルの見直しも行った。

目標 3 : 個々のご利用者の楽しみの充実のための情報収集を行い、個別の外出支援を行います。

(成果) 深大寺と神代植物公園に、少人数で出かけた。ご家族にも参加していただき好評であった。また、お好きなものを伺い外食等にも出かけることができた。

8 主要行事等の実施状況について

(1) クラブ活動実施状況

ピアノ (月 2 回)	20 回	(延 360 名)
折り紙クラブ (月 2 回)	24 回	(延 216 名)
音楽療法 (月 2 回)	24 回	(延 414 名)
書道クラブ (月 2 回)	20 回	(延 180 名)
スポーツ吹き矢 (月 1 回)	12 回	(延 207 名)
切絵クラブ (2 ヶ月 1 回)	6 回	(延 108 名)
アロマハンドマッサージ	2 回	(延 36 名)
コーラス	2 回	(延 36 名)
傾聴 (月 10 回)	120 回	(延 605 名)

(2) 主要行事実施状況

(別紙 2) のとおり実施した。

苦情申立ての状況

今年度、当ホームに対する苦情の申立はなかった。